

V 女性が活躍する畜産業を目指して

1 女性の持つ能力を経営に生かそう

女性には母性本能があります。

この能力は、生命（家畜）、食（畜産物）に関わる産業である畜産にとって大きな意味があります。

よく、子牛や子豚の世話は女性向きと言われるように、女性の持つ能力（母性）は家畜を育てることにおいて大きな役割を果たします。

また、加工や販売に取り組んでいる経営においては、顧客が喜び手に取ってもらえる商品づくりにおいて、女性の発案が顧客サービスや商品開発に生きてきます。

2 畜産女性からの情報発信を積極的に展開しよう

自分の取り組みを周りに理解してもらおうと思うのであれば、積極的に自らの畜産女性としての活動を様々な媒体を使って情報発信していきましょう。

そして、女性の価値観や女性の目線で情報発信をしていくことで、今まで気が付かなかったことにも周りの気付きがおきるでしょう。

3 女性が外に出ていける環境づくりを進めよう

地域内の仲間との交流、他畜種・異業種との交流を積極的に進めていきましょう。

そのためには、畜産女性自身の努力とともに、家族、経営主、経営支援者がその努力を後押ししてあげることが大切です。

4 畜産女性を取り巻く課題の多くは男性にも当てはまるのでは

“女性が働きやすい環境づくり”イコール“女性にとっても男性にとっても、共に働きやすい環境づくり”の第一歩です。

5 地域社会の活性化と変化へつなげよう

女性の持つ能力が如何なく経営に発揮され、その取り組みが多くの人たちの目に触れ、さらに、女性が地域や全国の仲間、他畜種・異業種の人達と交流していき、女性にとっても男性にとっても働きやすい畜産の環境づくりが進むことで、やがて地域社会の活性化・変化へとつながっていくのではないのでしょうか。

